

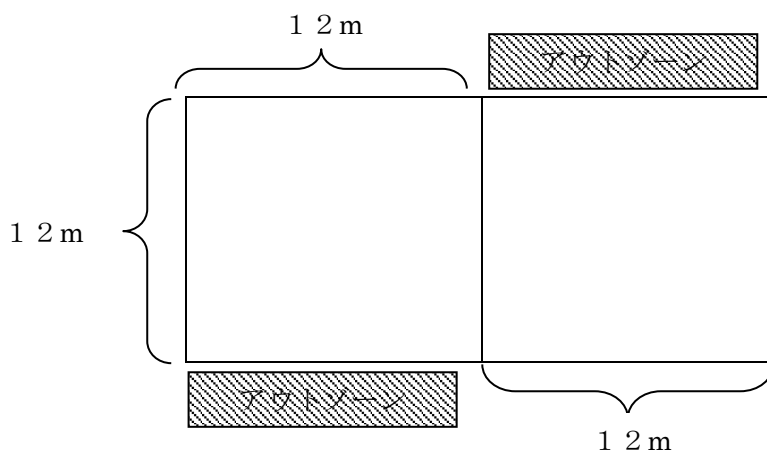
G ドッジボール大会 公式ルール

① チーム

- ・対戦人数は、15人以上30人未満とし、男女混合チームとする。ただし、チームの中に、1・2年生を必ず（1人以上）入らなければならない。

② コート

- ・コートの大きさ(タテ×ヨコ)は、12m×24mとする。
- ・各内野から外野に向かって右側に「アウトゾーン」を設ける。



③ 試合時間と形式

- ・G ドッジボールでは、ターゲット選手「ゴーリー」 内野選手「ガーディアンズ」 外野選手「ゲッター」とよぶ。
- ・1試合は5分×2回（前後半・コートチェンジあり）で行う。
- ・アウトになった選手は、上図の「アウトゾーン」へ順番に並んでいく。
- ・ガーディアンズ（内野選手）がノーバウンドでキャッチした時には、アウトゾーンにいる選手1人が、順次内野へ復活できる。
- ・1年生または2年生の中から「ゴーリー」を各チーム1人決める。
- ・ゴーリーがアウトになった時点で、試合（前後半）は終了とする。
- ・試合終了時に、両チームともにゴーリーが残っている場合、アウトゾーンの人数で勝敗を決め、人数が少ないほうを勝者とする。
- ・更に同数の場合は、サドンデス方式で決める。
- ・ゲッター（外野選手）は各チーム1人だけとして、原則として試合途中での交代や内野への移動は認めない。
- ・前半終了時点でゴーリー・ゲッターを変更することは可能である。
- ・一投目でジャンプボールの選手は当ててはならない。

④ ボールの支配権

- ・ジャンプボール(真上に1m程度)でボール保持チームを決め、ジャンプボールとともに試合を開始する。後半も同様に行う。

- ・ラインを踏んだり超えたりして投受（オーバーライン）等の行為は、相手チームにボールの権利が移る（投げた後も同様）。
- ・ボールはとった人が投げる。チーム内での譲渡行為があれば違反行為とみなし、相手ボールになる。
- ・人や障害物に当たって跳ね返った場合は、そのまま続行する。（指定しない場所にいた人に当たり跳ね返った場合は、その人が妨害したものとし、相手が不利にならないように審判が処理する）

⑤ アウト・セーフ

- ・相手のノーバウンドの投球を取れなかったり、当てられたりした場合にアウトになる。
- ・1回のノーバウンドの投球で2名以上当たった場合は、最初の1名がアウトになる。
- ・顔や頭にボールが当たった場合はセーフとする。
※わざと頭を出したと審判が判断した場合はアウトとする。
- ・一度味方に当たったボールをノーバウンドで味方の選手が取った場合は、その当たった選手はセーフとする。
- ・相手が投球した時に、オーバーライン等の違反行為があった場合、当たってもセーフとする。
- ・泣く、ケガなどで試合を続けられない状態の時は、アウトとする。

⑥ コート横からのパス禁止

- ・内野選手がコートの中から横に向かって外野へパスするのはよいが、外野がコートの横から内野へ投げ入れることを禁止する。

⑦ 相手コートへの進入

- ・相手コートには、いかなる場合も進入できない。相手コートを横切って入ってはいけない。
- ・相手のコート内にあるボールは、身体を踏み入れず味方コートに入れ込むことはできる。

⑧ ボール

- ・ボールは、「molten ライトドッジボール2号球」を使用し、主審の判断で使用するボールを決める。
- ・外野の後ろに味方の見学者を2名置き、ラインを超えたボールを取りに行かせてもよい。

⑨ 試合終了

- ・前後半ともに主審のタイムアップの合図で、選手は速やかにその場へ座ること。
- ・試合終了のホイッスルが鳴ったらボールを主審に返す。
- ・試合終了時のアウトゾーンの人数が少ないチームを勝者とする。または、時間内で相手チームのゴーマリーをアウトにした場合、その時点で勝者となる。

* その他、ルール上にない問題が発生した場合は、両チーム納得の上で、主審の判断で進めることができる。